

基本認識

- 臨床実習に係る時間数の減少や臨床能力の格差に加え、いわゆる大学全入時代の到来や歯科医師過剰の中での入学者の資質能力の低下や格差が指摘され、臨床能力の更なる低下等を招き、歯科医療の信頼性に関わる深刻な事態も憂慮。
- 国民から信頼される確かな臨床能力を備えた歯科医師を養成する質・量ともに適正な歯学教育について議論。第1次報告としてとりまとめたもの。

改善方策

1. 歯科医師として必要な臨床能力の確保

- 臨床実習に関し、組織的・体系的な到達目標の設定や成績評価の実施等が不十分
 - 臨床実習に必要な患者の協力の困難、歯科医師国家試験対策に追われる状況が見られ、診療参加型の臨床実習の時間数が低下
- 診療参加型臨床実習の単位数の明記、卒業時到達目標や必要臨床実習項目の明確化
 - 臨床実習終了時の各大学でのOSCE（客観的臨床能力試験）の実施
 - 学外機関を活用した臨床実習の促進

2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

- モデル・コア・カリキュラム、共用試験の導入の中で各大学の教育の特色が希薄化
 - 共用試験の実施時期を境に座学と臨床実習に大きく分離
- 各大学の体系的な教育課程の編成の徹底。成績評価・進級判定の厳格な実施
 - 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの見直し
 - 歯学教育の質を保証する第三者評価の導入

3. 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保

- 激しい受験競争が依然として存在する反面、入試の選抜機能が低下する大学も見られ、歯学部入試を巡る状況が二極化
 - 歯科医師過剰が職業としての魅力の低下や臨床実習に必要な患者の確保等に影響
- 入学者受入方針の明示。入試関連情報の公開
 - 面接の充実、高校との連携等、学生の適性等を見極める各大学の入試の工夫
 - 優れた入学者確保が困難な大学、国家試験合格率の低い大学等の入学定員見直し

4. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

- 基礎と臨床が有機的に融合された研究や、患者や疾患のきめ細かな分析に基づいた研究が必要
 - 学部段階から、常に自らの診断・治療技術等を検証し磨き続ける意欲や態度が必要
- 学部教育の中で実際の研究に携わる機会の拡充
 - 歯学系大学院の目的や教育内容を、臨床歯科医、研究者の養成目的に応じて明確化
 - 国際的に優れた若手研究者養成のため、個々の大学の枠を超え連携した拠点形成

今後の検討

- この提言を踏まえた各大学や関係機関の取組状況をフォローアップするとともに、第三者評価の導入をはじめとする歯学教育の質保証の方策等を議論
- 文部科学省は各大学の改善計画を把握し、改善を推進すること
- 文部科学省・厚生労働省が緊密に連携し、モデル・コア・カリキュラム、共用試験、国家試験、臨床研修を含め、卒前・卒後教育を一体的に捉えた検討の場の設置を要請